宮沢賢治の弔辞

大村小学校校歌の作詞者である儀府成一は、昭和初期に岩手県出身の詩人の作品を集めた詩華集「岩手詩集」を発刊するための趣意書を岩手日報に掲載したことから、宮澤賢治が亡くなる二年前から賢治と親交を深めた人物でした。「儀府成一」の名前は、童話や小説の際のペンネームです。さらに、「母木光」という詩人としてのペンネームも持っています。本名を藤本吉四郎（または光孝）と言います。生家は、御所地区の伝久（現在のローソン）ですが、幼い頃に大村の藤本家の養子となります。中学受験準備という名目で生家に戻され、大勢の親兄弟の中で生活を送りました。生家の肉親にとり巻かれながらの生活とはいえ、とても孤独であり、大村の養家を思い出しては泣いていたとのことです。そんな彼の支えとなっていたのが岩手山や七つ森といった生家の目の前に広がる雫石の風景でした。

彼は、成人した後に東京で暮らしていたのですが、郷里に戻ります。儀府成一と宮沢賢治との歳の差は十五歳です。しかし、賢治は儀府成一を友人として、とても親しく思っていたようです。賢治は、彼の処女詩集『春と修羅』を儀府成一に送ります。儀府成一は、一読して衝撃を受けました。「七つ森」「くらかけの雪」「小岩井農場」「東岩手火山」「一本木野」、自分の生まれ育った自然を賢治は誇らしげにうたいあげている…。

賢治の登山好きはよく知られています。特に、岩手山登山をとても気に入っていたようです。盛岡中学と盛岡高等農林学校時代に、少なくとも二十八回は岩手山に登っているとのことです。まだ橋場線（田沢湖線）が開通する前、当然盛岡から徒歩で登るのですから、その体力に驚くばかりです。そんな彼にすれば、小岩井や七つ森の周辺は、いわば歩きなれた散歩区域みたいなものだったようです。そのことから、賢治はごく自然に彼の文学的出発といわれる短歌において、中学二年の頃から「七つ森」や「小岩井農場」、「岩手山」を主題に選び、やがてそれが詩にも童話作品にも及びます。

儀府成一は、著書「人間宮澤賢治」の中で、宮沢賢治の童話の舞台、そして、イーハトーヴォそのものが小岩井とその周辺以外には考えられないと述べています。「…略…花巻や、種山ヶ原や、賢治がイギリス海岸と名づけて書き留めた北上川流域よりも、むしろ小岩井を中心とした雫石盆地の鬱然とした北欧風の風景とか、丘かげの茶褐部落とか、大きくえぐれている沢、または立っている渓流に沿うて点々と散在する奥深い村々のほうが、彼の作品の母体もしくは背景をなしているように、私には思われてなりません。」

また、儀府成一は宮沢賢治の弔辞を作り、葬儀の際に読みましました。その文面は、当時無名だった宮沢賢治がやがて大きな存在になることを見事に予見した内容でした。次ページに掲載いたします。

なお、弔辞は友人三名の連名となっています。一人目の森惣一はペンネームです。本名は森佐一と言います。彼は、森荘已池のペンネームも持つ岩手県在住で初の直木賞作家です。盛岡中学時代に賢治と知り合い、親交があった方で、昭和三年に岩手日報社に入社し、学芸部記者となります。そして、岩手日報に賢治作品の批評や賢治の消息記事を載せ、中央で正当に評価されることの少なかった賢治を世に紹介することに努めました。

二人目の藤原嘉藤治は、紫波町水分に生まれ、地元の小学校の訓導（先生）をしていましたが、音楽の才能を認められ、当時の盛岡城南小学校長である三田地勘助治郎氏に引き抜かれ、城南小学校で教鞭をとります。その後、花巻高等女学校（後の花巻南高校）の音楽の先生に大抜擢されました。その時、花巻農学校（後の花巻農業高校）の教師をしていた賢治と知り合い、交友を深め合います。賢治が亡くなった後は教師を辞めて家族とともに東京に移り、宮沢賢治全集の出版等賢治の作品を世に知らしめる中心的な役割を担いました。その後は、賢治の理想の村づくりを自ら実践するために、紫波町東根山麓で開拓事業に従事しました。紫波町ラフランス温泉近くに家があり、県道を通ると、「宮沢賢治の親友藤原嘉藤治の家」の看板を見ることができます。

弔辞

あなたは梨の花の匂ひがするやはらかい雲の上で、今頃何を思つて居られるでせうか

諸々の美と真と善のみを愛し一切己を捨て、あなたは従容（しょうよう）と善逝（すがた）から来て善逝（すがた）へかへられた

あなたの存在は私どもにとつてはなんであつたらうか。私どもは明智神のようなあなたに対してお世辞やおへつらひを一言ものべる必要を認めない。あなたは私どもの人生にとつて太陽でありあなたの広い大きい愛の力、そして無数の作品は、私どもの生活の日夜を照らして下さいました。

私どもは今真っ暗い中に呆然と立つてゐるやうな気がしますが、しかし仏様のようなあなたの棺に入れられた時のお顔をしつかり頭の底にきざみつけて生きてゆかうと思ひます。

あなたは何故あなたの人間力を芸術をもつと正当な自信と誇りを以って世に主張されなかつたのでせうか。私どもはあなたをあなたの芸術を世界第一流のものとして、大いにほこりを持つのに御本人のあなたは、この世のものでないやうな謙譲でひたすらかくして居られました。この町の人々は、この国の人々は、そして日本の人々は五十年或は百年の後に、あなたがどのやうに偉かつたかといふことが分かるでせう。

あなたの輝かしい沢山の遺稿を目のあたりに見て私どもは芸術の不滅であることを確信します。そしてあなたの残されたこの芸術をふかく考へれば、あなたの死が肉体の、すなはち形の上の死であることがわかります。しかしながら私どもはつまらない凡人ですから、目の前にあなたを見ることができなくなつたことに対して、誰にも訴へやうのないやうなはげしいかなしみを感じます。

あゝそして永生（ようしょう）の壮麗な光りの園の中に静かにおねむり下さるやうに
光美しき秋、そして哀しみの極まる日に

昭和八年九月二十三日

森　惣一
藤原　嘉藤治
母木　光

（注釈）　○従容＝ゆったりとしている様　○善逝＝煩悩を断って悟りの彼岸に去った者　○永生＝永遠に滅しないこと、涅槃